

音楽は五線譜という フォーマットに表現した言語

季節と自然と共に農的暮らしを送り
創造力を磨く音楽家

笠村 勇樹 さん

安曇野と東京の2拠点で音楽家として活動しながら、ゲストハウスや酒造会社、障がい者就労施設で働き、米作りにも取り組む笠村さん。季節と自然に寄り添う暮らしの中で自分の信じる音楽を追い続けています。音楽への思いと安曇野での暮らしを聞きました。

自分の信じる音楽を求めて

大学時代はクラシックを専攻しながら、バンド活動に明け暮れる日々を送っていました。しかし、その頃から都会の暮らしにはどこか違和感を抱いていました。音楽を仕事にすると、食べていくために自分が本当にやりたい音楽とは違うものを求められる場面があります。いわゆる「商業芸術」のようなものに疑問を感じていました。転機となったのは、東日本大震災とコロナ禍でした。特に、暮



上:市内で開いたHomalle Saxophonesのライブ(5/30) 下:耕運機を操り農的暮らしを送る

らしの中にあることで人を豊かにするはずの音楽や芸術が「不要不急」とされたことで、自分の暮らしと音楽の関係性を改めて考えるように。自分が本当にやりたい音楽だけを追い求めたい。そして、地域や季節を大切にしたい暮らしと両立したいと思い、昨年3月に妻と一緒に安曇野へ移住しました。ゲストハウスなどで働き、米を育て、自給的な暮らしを始めると抱えていた違和感は自然と消えてきていることに気が付きました。

音楽は「言語になる前」の表現

今は、安曇野でライブを行った「Homalle Saxophones」などいくつかのバンドに所属して活動していて、そのうちの一つ、「水野蒼生電気交響楽団」で今夏のフジロックフェスティバルへの出演が決まりました。このバンドはクラシックを現代によみがえらせる現代版オーケストラです。

元々音楽をジャンルで分けることよりその境界を越えて、異なる要素やジャンルが交じり合う感じが好きでした。実は、昔からあるバロックなどはシンプルで即興性が高いんです。今の方が研究が進んだことで難しいイメージになってしまってます。音楽は五線譜というフォーマットに表現した言語の一つだと思っています。言葉は、相手に伝えようとするば

するほど説明的になって、本当に伝えたい感覚が薄くなってしまっていることがあります。でも音楽は、言葉になる前の感覚を表現できます。「何かわからないけど楽しい」と思ってもらえたら、それが一番うれしい瞬間です。

人が集まり 新しい表現が生まれる場所へ

自然と共に暮らしながら音楽活動を続け、さまざまな人が集まる場を作りたいことを夢見ています。ミュージシャンや芸術家など思いを持った人たちが集まって、それぞれの経験や表現を持ち寄る場所にしたいです。そこから新しい遊びや暮らし方が生まれて、それが、また誰かの暮らしを少しでも面白くすることにつながればいいなと思っています。

東京都出身。12歳の時に吹奏楽を始めたことをきっかけにサクソに出会う。安曇野で農的暮らしを実践しながら創造力を磨き続けている。Homalle Saxophones 主宰。



笠村勇樹さんの
Instagramはこちら▶



初めてのコンサートに 興味津々

5月29日 0歳からのミニコンサート



赤ちゃんが泣いても声を出しても気軽に生の音楽を楽しめるコンサートが三郷公民館で開かれ、37組の親子が参加しました。当日はピアノとソプラノのデュオ・duo SioNAの田中淳子さんと三澤ひろみさんが、クラシックやディズニーのテーマソングなど11曲を披露。子どもたちは、自由に体を動かしたり声を出したりしながら、会場に響く優しい歌声と音色を全身で感じていました。

ピアノが好きな息子の朝陽くん(1)と参加した笠井優花さん(32・三郷明盛)は「アットホームな雰囲気での楽しい時間が過ごせた」と話していました。

食と農を身近に感じる 田植え体験

5月14日 園庭ミニ田んぼ 田植え・おこひる



爽やかな五月晴れの空の下、有明あおぞら認定こども園の園庭に作られたミニ田んぼで田植えが行われました。この活動は食と農の魅力発信と自然保育の推進を目的にスタートし、本年度で5回目。この日は、年長児が元気よく、地元の営農組合の皆さんに育ててもらった苗を一つ一つ丁寧に植えていきました。

また、田植え後には「おこひる」文化を体験する一環として、きな粉のおむすびが振る舞われました。元村昊誠くん(5)は「水が冷たかったけど、きもちよかった。上手に植えることができた」と収穫を楽しみにしていました。

台湾伝統の音楽演奏を披露 訪日教育旅行で異文化交流

5月12~14日 台湾苗栗県の小学生22人が来訪

台湾苗栗県の小学(日本の小学校)2校に通う子どもたち22人が、訪日教育旅行の一環で安曇野市を訪問しました。滞在中は穂高北・穂高南の小学校2校の児童たちと交流を深めたほか、市内観光やそば打ちなどを楽しみました。市農家民宿連絡協議会の皆さんの協力を得て、農家民宿も体験。13日には、市役所3階の議場で息の合った音楽の演奏を披露しました。台湾の重要無形文化財に指定されている伝統的な音楽「客家八音」の演奏では、ラッパやシンバルなどでにぎやかな音色を会場内に響かせました。劉千妍さん(12)は「交流をずっと楽しみにしていた。安曇野市は空気がきれいとても素晴らしい場所。温かいおもてなしに感激した」と喜んでいました。

